

年頭所感

山口県医師会長 加藤 智栄



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も山口県民の命と健康を守るために県医師会開催の多くの会議・行事がありましたが、都市医師会の皆様のご協力のおかげで恙無く遂行できましたことに感謝申し上げます。また、会員諸氏が県内のそれぞれの地域で、医療介護の現場で活躍されておられますことに敬意を表します。7月の参議院選挙では日本医師連盟推薦の釜范 敏 日本医師会副会長が医療福祉団体のトップで当選されましたが、山口県は中国四国各県の中で最も得票数が多い結果であり、会員の皆様のご協力に感謝致します。令和 7 年度の中国四国医師会連合総会は山口県が担当でしたが、日本医師会から松本会長はじめ渡辺常任理事、今村常任理事、坂本常任理事、佐原常任理事に来ていただき、9 月に開催されました。他県から山口県に来ていただいた方々が 4 つの分科会で熱心に協議し、松本会長と産業医科大学の田中良哉 教授の特別講演を拝聴し、大いに満足して帰られました。都市医師会から県医師会に出務していただいている役職員の活躍や事務局スタッフの活躍で成功裡に終えられました。

医療機関の経営危機が全国的に次々と明らかになり、病院ばかりでなく診療所においても厳しい状況です。理由は明らかで、医療機関の収入のほとんどは診療報酬であり、診療報酬は公定価格で低く抑えられ、インフレに全く対応していないからです。医療福祉就業者の 938 万人（全就労者の 13.7%）が全く置き去りにされています。そこ

で、県医師会では 8 月 28 日に定例記者会見（山口県医師会報令和 7 年 10 月号参照）を開催し、ある日突然、地域から病院や診療所がなくなってしまう危機的状況を県民に知ってもらい、医療機関に対する支援をお願い致しました。また、国に対しても他の医療介護関係団体と共に支援の要請を行う予定になっています。診療報酬を 10% 程度上げないと経営改善が望めないとの声がありますが、政治の方は自民党と維新の会との連立政権であり、維新の会は医療費を 4 兆円削減し、社会保険料を 6 万円下げる事を先の選挙で訴えていましたので、どの様に折り合いをつけるのか、気にかかるところです。

社会保険料を上げずに医療費を確保するには、輸出業者に還付される輸出戻し税を医療にも適応することが考えられます。2012 年に医療費にかかる消費税をゼロにという論説を朝日新聞に掲載してもらったことがあります。英国やスウェーデンでは医薬品にかかる消費税はゼロですし、多くの国で軽減税率が導入されています。最終消費者が海外にいる輸出業者が税を還付してもらっている様に医療戻し税を導入すれば、社会保険料を上げなくても診療報酬は上げられると考えています。かつて消費税が上がる過程で、軽減税率を医療に導入するためには、医療をまず課税扱いにしなければならず、そうすると診療報酬に組み込まれている消費税分を財務省は引き剥がすので 1.5 兆円のマイナスになるとの説明を日本医師会の方から受けましたが、今回の提案は、非課税扱いのまま、純粹に医療戻し税を創出する提案です。診療報酬に組み込まれた消費税分では全く足りなかった事が明らかになっており、しかも計算に誤

りがあったのですから、引き剥がす論理自体が成り立たないと考えます。消費税はインフレになら増えるので、医療戻し税の導入はインフレになんでも医療機関のダメージは緩和されることになり、インフレに全く対応できない今の診療報酬システムでも、消費税負担が大きい医療機関はより大きな負担軽減にもなり、医療を受ける患者さんのためにもなり、さらに社会保険料を支払っている国民のためにもなると考えます。実際の消費税は消費税が 8% から 10% に上がった 2019 年には消費税 1% 分が 2.6 兆円でしたが、2025 年には 3.3 兆円になっています。10% で計算すると、7 兆円となるので医療戻し税として幾らかを還元することは十分に可能ではないでしょうか。

超高齢社会にある今の日本とこれからの世界の需要を考えると、経済成長の真ん中に医療産業を持ってくることが、一番理にかなっていると思います。自動車産業も中国の追い上げが激しくなっていますし、他のアジアの国々でも国産の自動車を作り始めていますので、輸出できる次

の産業を育てる必要があります。2002 年に韓国が国家事業として立ち上げたセルトリオンというバイオシミラーを作っているメーカーはトヨタと同じくらいの資産価値になるまで成長しています（11 月 14 日の時価総額はトヨタ：41.35 兆円、Celltrion：43.92 兆円）。国内の医療産業が育てば、税収は増え、保険料率を上げなくても医療費を貯えるようになるのが理想的です。世界の医薬品と医療機器市場の成長は 6 ~ 7.5% ですので、需要のある医療産業を育てるべきです。2023 年の医薬品と医療機器の貿易赤字は 5 兆 2,558 億円にもなっており、前年よりも 5,000 億円以上増えています。一方、企業の内部留保は 2024 年 636 兆円と前年よりも 35 兆円増えています。なぜ、医療に投資しないのでしょうか？

医療に対する理解が深い高市政権下で、医療産業が育ち、多くの医療機関が経営危機から脱し、医師の善意が反映されやすくなり、国民にいい医療が提供できる素地ができる事を心から願っています。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

年頭所感

日本医師会長 松本吉郎



明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

本年の干支は、「丙午（ひのえうま）」です。「丙午」は、ある意味で最も有名な干支かもしれません。根強い迷信によって、前回の1966年でも出生率が前年より約25%も下がるなど、驚嘆に値する影響力がありました。

「丙」「午」は共に「火」の要素を持ちます。それが迷信にもつながっているのですが、別の面から見ると「情熱」や「エネルギー」と捉えることができます。実は私も午年生まれで本年は年男でございますので、高市総理も自民党新総裁就任時に仰っておられましたが、私自身も「馬車馬のように」医師会のために働き、地域医療を守るという強い決意と信念の下、情熱的、かつエネルギーな一年にしたいと思います。

日本では、新年に門松・しめ縄・鏡餅の飾り付け、おせち料理、お屠蘇、初詣、年賀状など、新しい年の無事を願う様々な風習があります。

我が国には、平安時代に宮中医官を務めた丹波康頼が撰した、日本に現存する最古の医学書で、984年に朝廷に献上された「医心方」があります。現存する仁和寺の「医心方」は1952年に、東京国立博物館の「医心方」（半井家本）は1984年に、いずれも国宝となっています。日本医師会では、国宝「医心方」のユネスコ「世界の記憶」への登録を目指して活動しています。新年を期に、是非多くの会員の先生方に知っていただきたいと考えております。

また本年は、2月に冬季オリンピックがイタリアのミラノとコルティナ・ダンペツツオで、6月にサッカーワールドカップ2026がアメリカ・カナダ・メキシコでそれぞれ開催されます。日本選手が大いに活躍されることを期待しております。

さて、昨年は参議院選挙が行われました。本会からは当時副会長であった釜范 敏先生が組織内候補として出馬し、初当選を果たされました。与党が過半数割れし、自民党の全国比例の得票数も前回から大きく減少するという極めて厳しい状況の中でしたが、皆様のご尽力によって、医療・社会保障関係候補者7名のうち、トップの17万4,434票余りを獲得することができました。

組織強化につきましては、私が日本医師会長に就任して以来、力を入れて取り組んでまいりました。新たな医師会会員情報システム「MAMIS」によって、これまで書類で行ってきた入会・異動等の手続きをWeb上で行えるようになったこともあり、今年は更なる会員増に向けて活動を推進してまいります。ご協力いただいております全国の医師会の先生方には改めて深く感謝申し上げます。MAMISにつきましては、本格的な運用開始後、さまざまご意見・ご要望を頂いており、順次改善してまいります。

なお、本年夏頃には、昨年から建設しております新オフィスビル「JMA EXTRA」も竣工予定です。

また、昨年4月より、かかりつけ医機能報告制度が施行され、地域における面としてのかかり

つけ医機能のさらなる発揮に向けた取り組みが始まりました。この1月から3月にかけて、かかりつけ医機能報告制度のG-MISを活用した申請も始まります。地域を面で支えるため、多くの医療機関に手を挙げて参画いただきたいと考えております。日本医師会としてもかかりつけ医機能報告制度を見据え、研修の充実等を図ってまいります。

今春には、令和8年度の診療報酬改定が行われます。改定にあたっての基本認識として、まず、日本経済が新たなステージに移行しつつある中の物価・賃金の上昇、人口構造の変化や人口減少の中での人材確保、現役世代の負担の抑制努力の必要性が挙げられております。次に2040年頃を見据えた、全ての地域・世代の患者が適切に医療を受けることが可能で、かつ、医療従事者も持続可能な働き方を確保できる医療提供体制の構築、さらには、医療の高度化や医療DX、イノベーションの推進による、安心・安全で質の高い医療の実現、そして、社会保障制度の安定性・持続可能性の確保、経済・財政との調和といった方向性で、診療報酬改定が進められることになるかと思います。

そのための基本方針として、「物価や賃金、人手不足などの医療機関等を取りまく環境の変化への対応」、「2040年頃を見据えた医療機関の機能の分化・連携と地域における医療の確保、地域包括ケアシステムの推進」、「安心・安全で質の高い医療の推進」、「効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上」の4つが挙げられています。

日本医師会としては、まずは急激な物価高騰に対応するとともに、公定価格で運営されている医療機関・介護施設等における就業者約938万人の賃上げが可能となる環境を整えることが不可欠だと考えております。

また、医療機関は、病院、診療所ともに一体となって地域を支えており、両方とも必要不可欠です。特に財務省等は、「病院と診療所」、「高齢者と若者」、「病気の方と健康な方」など様々な二項対立で分断を煽っておりますが、それが社会の不

安定につながっていきます。社会格差と健康格差を生まないような社会にしていかなければなりません。

保険料はすべて国民の健康と生活を支える医療・介護として還元されています。社会保障給付は、医療・介護ニーズの高い高齢者を中心を利用されるため、現役世代の社会保険料負担のみに着目した議論になりがちですが、現役世代にとっても、離れて暮らす高齢の親への仕送りや医療・介護を心配することなく安心して働き、能力と適性に応じた場所で活躍できることこそが、子どもの有無にかかわらず現役世代のメリットです。

このような課題に対し、医療保険制度を持続可能とするための方策として、高額療養費制度や、高齢者の自己負担のあり方、金融所得の勘案の検討、OTC類似薬の保険給付のあり方、医療保険制度における出産に対する支援の強化等が挙がっております。

その他にも医薬品の安定供給や2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の検討など、医療界には取り組むべき課題が山積しております。日本医師会は、医療界の総力を結集して議論をリードしつつ活動を進めてまいります。

新しい年が会員の先生方お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭に当たってのごあいさつといたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭所感

山口県知事 村岡 嗣政



明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年が素晴らしい年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、平素から、山口県医師会の会員の皆様方には、本県の保健医療行政をはじめ県政全般にわたり、格別の御理解、御協力をいただきておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、人口減少の進行をはじめ、デジタル化や脱炭素化等の社会変革、自然災害の頻発化・激甚化など、県を取り巻く環境が大きく、急速に変化する中で、様々な社会変革の先にある本県の「新たな未来」を見据えて、県づくりを力強く前へ進めていかなければなりません。

こうした中、私は、県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」に基づいて、県民誰もが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる「安心で希望に満ちた山口県」の実現を目指し、関係団体の皆様と連携して、様々な取組を進めているところです。

とりわけ、医療は、県民が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける上で欠かすことのできない、重要な社会基盤の一つであり、限られた医療資源の中で、地域にふさわしいバランスの取れた医療提供体制を構築することが重要であると考えています。

このため、「生涯を通じて健康で安心して暮らせる地域保健医療体制の確立」を基本目標に掲げた「第8次山口県保健医療計画」に基づき、「県民の安心・安全を支える保健医療提供体制の構築」、「地域の保健医療を担う人材の確保と資質の向上」の二つの視点に沿って、総合的に施策を推進しています。

また、今年は、85歳以上の高齢者の増加や人口減少がさらに進む2040年とその先を見据え、全ての地域・世代の患者が、適切に医療・介護を受けながら生活できる医療提供体制の構築を目指すための「新たな地域医療構想」の策定に着手する、重要な年となります。

新たな構想については、医療機関の役割分担の明確化や在宅医療・介護との連携強化、医療DX、タスクシフト・シェア等の推進による生産性の向上など、県内各地域のあるべき医療提供体制の実現に資するよう、関係者の皆様の御意見をしっかりとお聞きしながら、策定を進めてまいります。

もとより、こうした保健医療施策を着実に進めていくためには、医療現場等の第一線で日々御活躍されている山口県医師会の皆様のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続き御協力を賜りますよう、お願いいいたします。

今年の干支は、「丙午（ひのえうま）」です。「丙（ひのえ）」は、太陽のような明るさや情熱、強い意志を象徴し、「午（うま）」は、美しくパワフルに駆ける「馬」の姿から「幸運が駆け込んでくる」と言われており、燃え盛るようなエネルギーで道を切り開き活力を引き寄せる様子を思わせます。

私は、山口県医師会の皆様をはじめとする関係団体や市町、県民の皆様との連携の下、本県を取り巻く環境の変化にも柔軟に対応し、人とのつながりをより一層強め、新たな未来を見据えた県づくりを力強く前へ進めてまいりたいと考えておりますので、皆様の御支援、御協力を賜りますよう、重ねてお願いいいたします。

結びに、山口県医師会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつといたします。